

令和7年度 中学生の「税についての作文」 優秀作品紹介



11月18日(火)、和水町役場本庁で、令和7年度中学生の「税についての作文」表彰式が開催されました。

今年度は熊本県全体で、4,000編ほどの応募があり、荒尾玉名地域の中学生からは、1,045編の応募がありました。

和水町からは3人の生徒が表彰されました。

- ・和水町教育長賞……………坂井 優花さん(菊水中学校3年)
- ・和水町長賞……………林田明香里さん(三加和中学校2年)
- ・公益社団法人玉名法人会長賞……………水嶋 結梨さん(三加和中学校3年)
- ・全国納税貯蓄組合連合会 作文募集推薦校感謝状……………三加和中学校

『税について考える』



菊水中学校 三年
坂井 優花

私は、小学四年生の時、体調を崩して救急車で病院まで搬送されました。自分もよく状況が分かっていた中、救急隊の人がスムーズに処置をしてくれたことを覚えています。病院で治療を受け、退院するとき、私の両親はお金を払いませんでした。病院の治療代は町が負担してくれることは知っていたけど、救急車のお金は支払わなければならぬと思っていました。驚いて母に聞くと「日本のみんなが助けてくれたんだよ。」と言われました。小学生だった私には、病院のお金は町が出したり、救急車のお金は支払わず日本のみんなが自分を助けてくれたりしている状況がよくわかりませんでした。でも、誰かに感謝しなくてはならないということには少し感じました。

のに時間がかかりそうだなと思いました。でも次の日のニュースでは、自衛隊の方々が被災地に入られ救助活動や土砂の撤去、避難者の生活支援をされていた。ニュースを見て他人事のように思っていた自分が恥ずかしくなりました。それと同時に、自衛隊の人は熊本地震のときも今回のときもいろんな人を救っていて格好いいなと思いました。

小学校六年生のときに租税教室がありました。そのときに、警察や先生方、自衛隊の方々のお給料は税金からきていることを知りました。そのとき、やっと病院で母に言われたことが分かりました。本当に日本のみんなが、私を助けてくれたんだと心があたたかくなりました。そして人吉・球磨地方の豪雨災害や熊本地震でも税金が役に立っていることが分かりました。それまで、物を買ったときは、税がかかって高くなるだけだと思っていたのが、人を救うためにもあるものということが分かり、税は今の日本に必要不可欠な存在なんだと思いました。

今、日本は税の問題が深刻化しています。「税が高すぎる」という国民の声が高まり、政治家の方も「税をなくす」という政策をだしたりしています。しかし、それでも必要な人のところに必要な支援が届かないということがあつてはいけません。税が高いという意見と、税は必要だという意見はどちらも長所と短所があります。だから、今、税について日本全体で考える必要があると思います。

和水町教育長賞



三加和中学校 二年
林田明香里

和水町長賞

『税金と救急車』

自分の目の前で、大切な人が苦しんでいるのに、救急車の到着が遅れる。そうなるってしたら、救えたはずの命まで救えなくなってしまうのです。もしかしら、私のおじも、救えたはずの命だったのかも知れない。おじが事故にあった後、一分でも二分でも早く救急車が到着していれば、おじは今も生きていたのではないかと、今はそう思います。

台の上に横たわるおじの顔には、苦しき痛みも何と感ぜられない程の笑みが見え、おじが亡くなったのだと実感した私の胸に、悲しみが押し寄せてきます。

あれから三年。お盆を迎え、おじの亡くなった日のことを思い出していた私は、ふとあることが気になりました。それは、おじが運ばれた救急車のことです。救急車の運用には、税金が使われています。つい先日、税金について学習した私は「救急車が一度出動する際に必要な費用」が気になりました。そこで、調べてみたところ、一回あたり約四万五千円、昨年一年間では、約三千四百七十二億円にものぼるとい

うことが分かりました。こうしたことから「救急車は、税金の無駄遣いだ。」とよく言われていますが、本当にそうでしょうか。

私もこの数値を見た時「高すぎる」というのが印象でした。しかし、救急車の利用者について調べていくと、その印象は変わっていききました。

近年、イタズラや軽症で救急車を利用する「不適切利用者」の割合が、救急車利用者全体の四割から五割を占めています。それに伴い、救急車の運用費が高騰しているというのが現状です。

不適切利用者がゼロになれば、救急車の運用費は、単純に考え現在の約二分の一にまで抑えられ、その分税金の使い道は広がります。そして何より「救える命」が増えます。こうしてみると、救急車は税金の無駄遣いなどではないと思います。

一部自治体では、緊急性の低い救急車の利用が有料化されていて、それは今後、日本全国に広がる可能性があるかとされています。そうなるのであれば、救急車の利用をためらい命を落とす人が出てくるかもしれません。

税金があることで、多くの命が助かる可能性は高まります。税金が使われる医療、教育、防衛、水道等は私達が快適で安心した生活を送るために必要なものです。だからこそ、限りある税金をバランス良く使っていくことが大切です。救急車の利用が必要から分らない時には、電話相談サービスを活用するなどして、救急車の不適切利用を減らしていきましょう。あなたと、あなたの大切な人の命を守るために。

『給食の裏側にある税金の力』



三加和中学校 三年
水嶋 結梨

公益社団法人玉名法人会長賞

私は学校で行われた租税教室で、税金がどのように使われているのかを学びました。その中で一番印象に残ったのは「給食費が無償になっているのは税金のおかげ」と知ったことです。

私の町では、給食費が無償になっています。毎日、当たり前のように食べている給食の費用を町が税金を使い負担されていることに驚きました。

給食は、私にとって学校生活の楽しみのひとつです。栄養バランスが考えられた献立で、家ではなかなか食べることができないような料理もあり、友達と一緒に食べることで会話も弾みます。今までは「学校だから出てくるのが当たり前」と思っていました。それが税金で支えられていると知って、給食のありがたさを改めて感じました。

また、税金は給食だけではなく、道路や病院、消防、図書館など、私たちの暮らしのいろいろなところに使われています。学校の中だけでもたくさん

のものが税金で整備されていると知り、税金が「みんなの暮らしを支えるお金」なのだと実感しました。

さらに、租税教室では、税金の使い道は議員さんたちが決めているということも知りました。私たちが納めた税金がどう使われるかは、国や町の議員さんたちが話し合って決めているそうです。そして、その議員さんを選ぶのが選挙です。

私はまだ選挙権はありませんが、十八才になったら必ず選挙に行こうと決めました。誰に税金の使い道を任せると税金を納めて、社会を支える立場になりたいです。そしてその税金が、誰のためにどう使われているかを考えながら、よりよい社会づくりに参加していきたいです。

毎日食べている給食。その裏側には、たくさんの方の働きと、税金という支えがあります。このことを忘れずに、感謝の気持ちを持ちながら、私はこれからも社会の一員として成長していきたいです。